

# 岡山弁変換ソフトの作製

池田 雄 小林啓吾

## 1. 研究概要

標準語から岡山弁に変換するプログラムを作成した。さらに、岡山弁の単語の書かれているボタンは、そのボタンをクリックすると、そこに表記されている岡山弁を正しい発音で喋ってくれるという機能を付加した。また、変換後の岡山弁を読み上げる機能も追加した。

## 2. 研究の具体的内容

まず始めに図1のように岡山弁と標準語の対応表を作った。(左が標準語、右が岡山弁)

全部で約200語調べた。

基本的に知らないような言葉は極力入れていない。

	A	B
70	引っかく	かなぐる
71	最後	しまい
72	立つ	立てる
73	時々	ときたま
74	いくら	なんぼお
75	どのくらい	なんぼお
76	勢い	ぶり
77	ここへ	こけー
78	ここに	こけー
79	沢山	よおけ
80	なので	じゃけん
81	無い	ねえ
82	馬鹿	あんごおー
83	用意でき	こさえれ
84	駄目に	おえんく
85	あげるからね	あげらあー
86	来てあげて	こられえ
87	でした	じゃった
88	ごきます	じゃ
89	ぞ。	で。
90	かな？	じゃろうか？
91	のかな？	んじゃろうか？
92	たので	たけん
93	だけど	じゃけど
94	だから	じゃから
95	だが	じゃけど
96	だろ	じゃろう

図1 対応表



図2 概観

図2は本体の外観で実際はこの二倍ぐらいの大きさである。上の白枠に文字を入力して「変換します!!」をクリックすると下の白枠に変換結果が表示される。

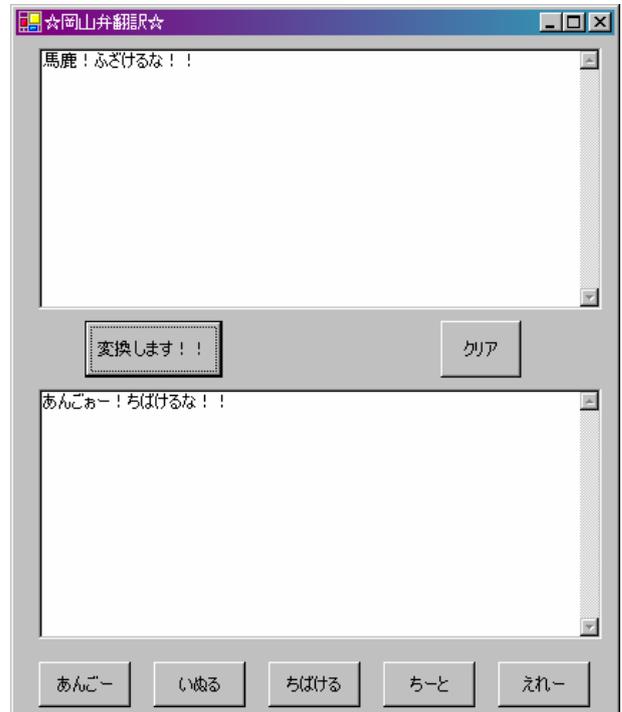


図3 変換結果の出ている外観

図3が変換ボタンを押して変換したものである。下部にある五つのボタンをクリックすると、正しい岡山弁の音声が出る。

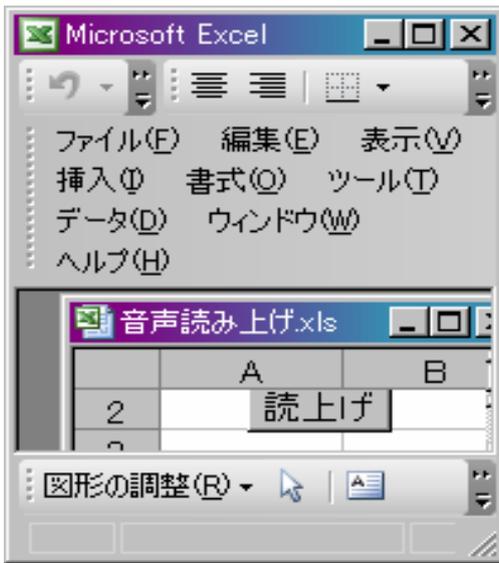


図 4 読み上げボタン

上の図の「読上げ」のボタンをクリックすると、図 3 で出てきた変換結果を喋ってくれる。  
(多少カタコトな日本語で)

### 3. プログラムの内容

```
string moji1;
moji1=textBox1.Text;
for(int h=0;h<27;h++)
{
    for(int i=0;i<7;i++)
    {
        moji1= moji1.Replace(list1[h,i],list2[h,i]);
    }
    label1.Text=moji1;
}
}
```

この変換用プログラムの変換部はこの 10 行前後で構成されている。リスト 1, 2 は長くなるので省略するが、string の二次元配列で宣言している。変換を行っているのは、7 行目の moji1.Replace(A,B) という文で、moji1 の中の A という文を探し、あればそれを B という文に変換する。

### 4. 感想・まとめ

対応表を作るための岡山弁の調査という作業がとても時間のかかるものであった。気づけば 160 語くらいになっていたもので、これ以上調べても、後はあまり知られていない言葉や、日常会話であまり使わないような言

葉ばかりなので岡山弁調査を終了した。

似たような単語や、意味は同じだが違う言い方をするものなどいろいろあり対応表が完成したときには大体 200 語になっていた。

プログラムの方で苦労したのは、変換された文が二次変換される場合があったことである。また、時間があれば他にも機能を付け加えられたかも知れないと思わず少し後悔した。

最後に、一番の目的である地元の方言に触れることができ、知ることができたのでとても満足である。とても有意義な研究だったと思う。

### 参考文献

廃れた岡山弁

<http://www3.ocn.ne.jp/~itiroike/okayamaben.htm>

岡山弁辞書

<http://www.tt.rim.or.jp/~canada/masakatz/okayama/dic/index.cgi?2>

岡山弁コンバータ

<http://www.pure.ne.jp/~gucchi/okayamaben.html>

岡山弁総合大辞典

<http://okayamaben.hp.infoseek.co.jp/kotoba/daijiten.htm>

岡山弁研究所

<http://www3.kct.ne.jp/~twobow/okayamaben/>

岡山弁講座

<http://www2.oninet.ne.jp/y-limit/limiryama/okayama.html>

楽しい岡山弁

<http://www.photocrazy.co.jp/topics/colum.html>